

– URA と知的財産専門職員との協働による総合的な研究支援 – **基礎研究⇔産業応用の双方向推進**

村田昭子（京都大学 学術研究支援室（KURA））、香月亜美（京都大学 産官学連携本部）

1. 研究支援者が大学/企業の研究に感じている課題：

- 基礎研究費の不足
→長期展望の基礎研究を継続し難い
- 研究の応用領域での専門支援が多様化する一方、基礎領域の支援手法は模索段階
→基盤となる“大学単独特許”の戦略的確保や社会還元へも影響

2. 目的：

- URA と知的財産専門職員の現場**協働**による「連携が効果的な領域や項目」の洗い出し、「相互理解」の推進、「相乗効果」の創出

3. 目標：

“チーム”として、
研究の入口～出口の双方向視点による一貫サービスを提供しよう！



4. 考えたこと：

- 産学連携＝応用領域、では必ずしもない。
“基礎領域”での産学連携の取組みを応援し、結果、応用領域や社会還元への好循環をつくれなにか？
- 産学連携の成果＝産業応用に展開、とは限らない。
産学連携から展開する新たな基礎研究も推進できる体制をつくれなにか？

5. 取り組んだこと、取組中のこと：

